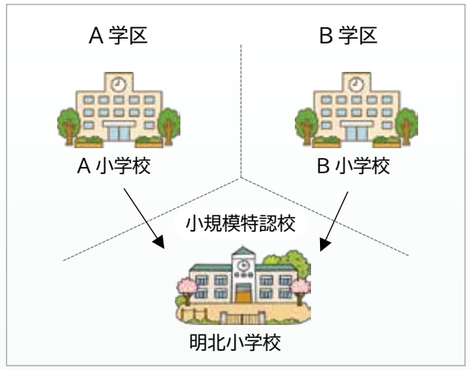
特集

明北小学校小規模特認校制度スタート
一番小さな小学校の大きな魅力

小規模特認校として令和７年４月からの児童募集に向けて動き始めた明北小学校。
少人数ならではの特徴や魅力を取組みと合わせて紹介します。

小規模特認校制度とは？

少人数を生かした、きめ細やかな指導や教育環境を持つ小規模な学校で「学びたい、学ばせたい」という児童や保護者に、一定の条件のもと居住する通学区域の枠を越えて、特別に児童の入学（転入学）を認める制度です。



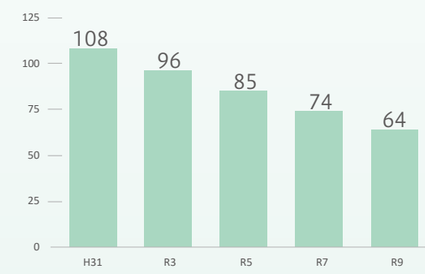
なぜ小規模特認校に？

平成31年には１０８人いた明北小学校の児童数は、令和9年には64人まで減少すると予想されています。そこで、令和４年度の総合教育会議で小規模特認校制度の導入が提案されました。同時期に明科地域が過疎地域に指定されたことも含め、明北小学校を一つのきっかけとした地域づくりの側面からも検討を始めました。令和5年には、区長、ＰＴＡ、学校長などでつくる市立学校通学区域審議会に諮問し、導入が決定しました。

のびのび環境でチャレンジできる

旧国鉄篠ノ井線廃線敷や雷山（かんだちやま）、犀川など豊かな自然環境がすぐそばにある明北小学校。１年生と６年生が一緒に行う体育の授業や全学年縦割りでの活動、全校鬼ごっこ・かくれんぼなど少人数だからできる学習や活動を多く行っています。これは、明北小学校にとっては特別なことではありません。自然体でつながり、のびのびした環境で学校と地域が一緒にチャレンジしながら成長することを目指しています。

■明北小学校の児童数推移



明北小学校の特徴

1. ゆとりある教室環境

少人数のため、ゆとりある環境で学習ができます。先生と児童の距離が近いので、一人一人に寄り添った指導や子ども同士のコミュニケーションが図れます。

2. 全員で作り上げる参加型行事

１～６年生の「たてわり班」活動や運動会の全校リレー、全校鬼ごっこ・かくれんぼなど少人数ならではの学校行事で学年を越えて全校のつながりが生まれます。

3. 明科の自然と地域との関わり

旧国鉄篠ノ井線廃線敷で開かれるアップルハロウィンへの協力や地域の人とのまんじゅうづくりなど豊かな自然を生かしながら地域の人と共に成長できます。

INTERVIEW

明北小のここがいい！

６年生に明北小学校の魅力を聞きました。

――明北小学校のいいところを教えてください。

中村 山や草花など自然が多くて外で遊んだり、運動するのが楽しいです。

山﨑 みんな顔見知りで学年関係なく話せるところがいい。別の学年にいる兄弟からもつながれます。

降幡 人数が少ないから学校全体がチーム。団結力があります。

――好きな学校の行事はなんですか。

一同 明北小まつりです。

降幡 迷路やおばけやしきなど学年ごと出し物や展示をする文化祭みたいな行事。みんな楽しみにしています。

中村 昨年はタイムアタック迷路をみんなで考えて作りました。

山﨑 みんなで盛り上がりながら作っていく感じが好き。

――小規模特認校への思いを聞かせてください。

山﨑 人数が増えるのが楽しみ。明北小ならすぐに仲を深められるはず。

降幡 地域が違うと暮らし方も違う。いろいろな考え方を知れる機会が増えるといいな。

中村 少人数のつながりから学んだことを大人になっても生かせるはず。